

植物と人々の博物館メールマガジン

第 112 号 2024 年 7 月 2 日発行



アジサイやクチナシからユリに花期が移り、小庭は馥郁な香りに満ちていました。続いてフヨウが咲き始めました。プランタのトマトやトウガラシも実がつき始め、モロッコインゲンはたくさん実がとれました。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：7月は梅雨の合間に、10:30~14:10に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

主な作業：下記に現況写真

- ①書籍・資料の整理
- ②民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50年記念
- ④植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

○報告

1) 食文化関連の書籍を整理しました。次は植物学関係の書籍、最終的には、海外調査で収集した書籍を整理します。森とむらの図書室は総計8000点ほどの資料・書籍になると思います。環境、食文化や民俗学関連の書籍はおおよそ移動しました。今後は、インド他の海外調査で収集してきた書籍を整理します。

2) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来2025年に創立50周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

○予定など

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。編集子は「希望と祈り」（仮題）で信仰論を書いてみたいのです。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。

<https://www.ppmusee.org/goods.html>

2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、主な海外フィールド調査ノートをデータベース化して公開しました。なお、個人情報には削除しています。現在、主課題の第 4 章～第 8 章までインドの雑穀農耕文化複合をまとめていきますが、同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々との対談テープの文章化を始めました。

退職後 10 年計画で進めてきた自選集全 6 巻は完成できていませんが、やっとインドの核心地域、佳境に入りました。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。また、50 年の研究成果の概要をまとめとして栽培穀物の起原、栽培化過程、および伝播におけるインド亜大陸の重要な歴史的役割を解き明かし、その修正仮説を英文で要約（第 5 巻“Essentials of Ethnobotany”）するところまでは、あと数年頑張ります。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく申し上げます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼ

ミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量をお礼に差し上げます。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

○予定 詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

7～8月は冒険学校、タイ・日本クラブキャンプ、などを予定しています。

3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

○ 報告

①今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。

kwangjuul1980@yahoo.co.jp ご連絡、ご参加をお待ちしています。

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](#)

[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](#)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](#)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

○予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<https://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

1) 今後の計画について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナーを再開する案が出ています。次

の環境教育学会での対面で自主課題研究（座談会）を企画しました。7月1日に打ち合わせセミナー（11名参加）を開催しました。これの報告を兼ねて、9月頃に環境学習セミナー（ウェビナー、第41回）を行う予定案です。

参考資料準備中：

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

2) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日

場所：江戸川大学、千葉県流山市

https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024

学会創業者（編集子は INCH メンバーと一緒にこの学会を創りました）の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論一心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、共同企画者数名の賛同を得ることができましたので、自主課題研究（9月1日）「希望を創る環境学習を求めて」も応募します。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学として ELF 環境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望、学問について話し合いたいです。若い方たちと直接話して、反応を見たいです。提出した要旨は下記です。ぜひ、ご参加いただき、希望を創る話し合いの輪に加わってください。お願いします。

対話集会（第35回日本環境教育学会大会自主課題研究会）へのお誘い

この学会の準備および初代事務局長として、ぼくは自然文化誌研究会のメンバーの協力を得て学会を創りました。もちろん、高名な先達沼田眞さんはじめ、多くの方々との共同作業でもありました。学会創業者の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論一心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、共同企画者数名の賛同を得ることができましたので、自主課題研究（9月1日）「希望を創る環境学習を求めて」も応募しました。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、自然文化誌研究会で実践してきた ELF 環境学習過程に基づき、根底的な生活様式の実践哲学として環境学習原論を提案しました。日本の社会を復興する希望、学問について深く話し合いたいです。若い方たちとも直接対話して、意見を聞きたいです。提出した要旨は下記です。ぜひ、ご参加くださり、希望を創る話し合いの輪に加わってください。よろしくお願いします。

<余談>初めて関東支部会の研究会に出してみました。大学における自然体験、農耕体験の実践報告でした。マニュアル本が欲しいと参加者がおっしゃっていましたが、すでにたくさん出ています。農耕なら家庭菜園の本で十分間に合います。実践はとてとても大切で、50年一日のごとくでも、とっても貴いです。学大では40年は実践してきました。しかし、一方で、理論構築がなければ、環境学習の重要さが世間から敬意を持たれません。これは現在の課題です。この学会が実践経験に基づいて理論を蓄積で

きなかったのが、衰退の主要因でしょう。自学会の論文さえも引用しないで、真に非常識、これでは学問的な蓄積、進展はないです。7月7日に、理事会主宰の関東支部会で、20年先の未来について語り合うそうですので、参加してみます。編集子はこの学会の創業者として、創立時、10周年、20周年で、記念座談会で提言してきましたが、大方聞き流されてきたようです。

小難しいのは環境学習であって、編集子の理屈ではありません。三省堂の『こどもかんきょう絵じてん』は小生の理論で監修しました。幼児から小2生およびその親向きに編集してあります。子供でも分かる環境学習理論です。

企画提案代表者 木俣美樹男

(自然文化誌研究会／植物と人々の博物館研究員)

1) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日 場所：千葉県流山市、江戸川大学

https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024

2) 自主課題研究予定案：希望を創る環境学習を求めて 資料集

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

*一般発表予定案：環境学習による心の構造と機能の文化的進化

*学会の歴史と環境科、環境教育推進法、環境学習原論資料 などを含む

3) 対話進行案

○参加定員 40～50名

○9月1日、15:30～17:30 時間配分2時間

1. 共同司会はじめの挨拶 藤村コノエ（環境文明21） 5分

2. 自主課題研究趣旨説明 木俣美樹男（自然文化誌研究会／植物と人々の博物館） 5分

3. 全体対話 参加者に発言を多く求める 50分

活動報告者 必要に応じて 各数分

長浜和代（お茶の水大学附属お茶の水小学校）

小柳知代（東京学芸大学環境教育研究センター）

斎藤博嗣（一反百姓じねん道） ほか

4. 自由グループ対話と報告 30分

全体対話の続き 25分

5. 共同司会まとめの挨拶 福田恵一（元中学校教員） 5分

~~~~~

## 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）  
事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）

~~~~~

編集子独り言：

海外調査ノートを推敲してみると、多くの篤農の皆さん、研究者や行政官の皆さんにお世話になっていました。自由な調査旅行ができ、多くのことを現場で学べたのは、これらの方々のご厚意、ご援助のおかげです。しかし、家族の大変さを忘れていたのではないですが、想いのままに調査旅行や実験に没頭していました。今どきで言うならば、許しがたい悪夫、父でした。ごめんなさい。

写真 官本茶園、佐野川の雑穀見本園とムギ畑。



ユリとアガパンサス、武蔵野公園のキノコ

